

令和6年度

新名神高速道路の整備促進に関する

要 望 書

令和6年6月

新名神高速道路建設促進協議会

要 望 書

高速道路は、我が国の産業発展に資するとともに、大規模災害時における広域支援ルートとして国民の命を守る社会資本の要である。

激甚化・頻発化する災害による脅威に対応していくため、平時だけでなく災害時でも安定的に人流・物流を支え、国民の生命・財産を守る強靱な高速道路ネットワークの構築、暫定4車線の6車線化など既存高速道路の機能強化及び持続可能な維持管理が求められている。

中でも新名神高速道路は、新東名高速道路とともに三大都市圏を結ぶ大動脈であり、全線開通により広域的な交通を担うことで社会経済に大きく貢献することが期待されている。

新名神高速道路では、「名港中央・大津間」、「城陽・八幡京田辺間」、「高槻・神戸間」が開通したものの、いまだにミッシングリンクや暫定4車線区間が残っており、高速道路整備によるストック効果を更に波及させるには早期の全線整備が不可欠である。

このことから、次の事項について強く要望する。

1 全線開通を早期に図ること

企業活動などへの影響を最小限とするため「大津JCT（仮称）～城陽JCT・IC間」の工程を精査し、早急に開通時期を明らかにした上で、一日も早い開通を図ること

「八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間」の着実な整備により、令和9年度での開通を確実なものとする

2 6車線化事業中区間の早期完成を図ること

事業中の「亀山西JCT～大津JCT（仮称）間」、「大津JCT（仮称）～城陽JCT・IC間」、「八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間」の6車線化について、早期完成を図ること

3 6車線化未事業化区間の早期事業化を図ること

「四日市JCT～亀山西JCT間」、「城陽JCT・IC～八幡京田辺JCT・IC間」「高槻JCT・IC～神戸JCT間」の6車線化について、早期事業化を図ること

4 防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図ること

新名神高速道路とともにネットワークを形成する高規格道路やICアクセス道路の整備を推進するため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の最終年度となる令和7年度においても、必要な予算・財源を確保するとともに、国土強靱化基本法に基づく国土強靱化実施中期計画を令和6年内の早期に策定し、必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保すること

令和6年6月

新名神高速道路建設促進協議会

会長 京都府知事 西脇 隆俊

新名神高速道路建設促進協議会

会 長 京 都 府 知 事 西 脇 隆 俊

副会長 愛 知 県 知 事 大 村 秀 章

副会長 三 重 県 知 事 一 見 勝 之

副会長 滋 賀 県 知 事 三 日 月 大 造

副会長 大 阪 府 知 事 吉 村 洋 文

副会長 兵 庫 県 知 事 齋 藤 元 彦

監 事 名 古 屋 市 長 河 村 た か し

監 事 神 戸 市 長 久 元 喜 造

新名神高速道路の整備状況

新名神高速道路建設促進協議会

